

耐火レンガ

耐火レンガ(SK-32・SK-34) 耐熱温度(目安)

品名	荷重軟化点	耐火温度	熔倒温度
SK-32	1,330℃	1,130~1,230℃	1,710℃
SK-34	1,380℃	1,180~1,280℃	1,750℃

耐火レンガは高温箇所に使用するものですが、金属のように一定の融点を持つものではなく、一定の温度より次第に軟化し最後には液状になります。その温度の基準点を荷重軟化点といいます。

品物の選定の際は、荷重軟化温度から100~200度の安全をみるのが良とされています。その目安の温度が耐火温度となります。但し、耐火レンガは実際に使用する場合の飛灰やスラグなどの融液の科学的作用、圧力、摩擦、急加熱、急冷などの影響も大きく受ける為、熱変動等の影響を受けやすい箇所への使用に関しては、高番手のものを使用することをお勧めします。

熔倒温度は、耐火煉瓦が耐えうる熱量の基準値となりますので、最高使用温度や荷重軟化点の温度まで安全に使用出来る基準ではありませんのでご注意ください。

モルタルの選定(SK-32・SK-34)

- 容量:25kg
- 使用枚数(1袋):70~80枚

耐火モルタルにも耐火度が有り、使用する耐火レンガに対応した耐火モルタルを使用します。

低温では固まりにくく、耐火物使用温度になると強度を発揮します。

また、熱には強いのですが水には弱く、水のかかるような場所では、時間がたてば、溶けて流れたりはがれたりするので、そのような場所へはセメントと併用してご活用ください。

目地の大きさは、3~4mmで積む、ガリ目地で積むのが主流です。